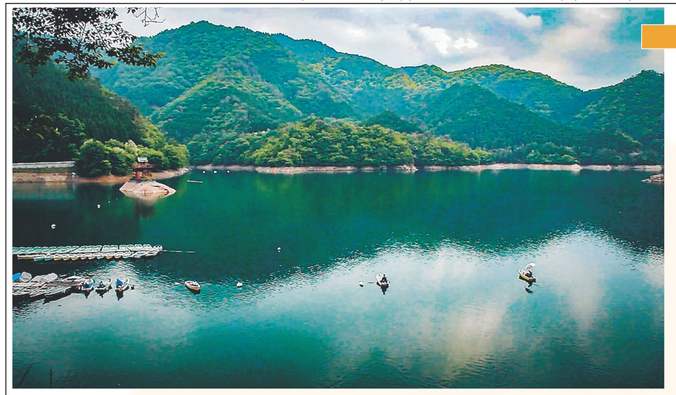


生野ダム

（撮影・藤原次郎）
朝来市生野町竹原野34

あさご芸術の森美術館

「岩を積み重ねたロックフィル式が特徴の雄大な多々良木ダムも見どころですが、その直下に位置する『あさご芸術の森美術館』は、地域とアートをつなぎたい人と考える学生の活躍の場所になっています」（瀧口さん）
朝来市多々良木739の3、☎079・670・4111▽開館時間＝10～17時（入館は閉館30分前まで）▽休館日＝水曜（祝日の翌日、水曜が祝日の場合はその翌日）、年末年始（2月25日～1月5日、展示替え日

糸井の大カツラ

（撮影・藤原次郎）

朝来市和田山町竹ノ内
問い合わせは、情報館天空の城☎079・674・2120

黒川ダム

「子供の頃、両親に連れられて『黒川ダム』によく行きました。下流の住民の生活や産業を支えるダムに、感謝の念を禁じえません。その美しい風景は、観光資源として大きな魅力を秘めていると思います」（安東さん）
朝来市生野町黒川

虎臥城大橋

「姫路と和田山を結ぶ播但連絡自動車道の和田山インターチェンジ手前にある、見事な"めがね橋"、が『虎臥城大橋』です。高さは最高で地上約36.5㍍。12の連続したアーチが均一に配置され、機能美が秀逸です」（藤井さん）
朝来市和田山町安井

円山川

（撮影・藤原次郎）

夜久野高原花畑

（朝来四季彩の丘）

「竹田城跡の写真で知られる朝来市在住の吉田利栄さんは、夜久野高原を花の公園として盛り上げるため、朝来市とともに取り組みを続けておられます。熱い思いがなければできないことで、キラキラとした目で夢を語ってくださったお姿が、今も目に焼き付いています」（安東さん）
朝来市和田山町宮▽開園期間＝10～15時（春と秋に期間限定）一般公開▽問い合わせ＝朝来市農林振興課☎079・672・2774

原六郎の生家　佐中の千年家

「朝来出身の実業家・原六郎はＪＲ播但線の前身、播但鉄道創設に関わり、渋沢栄一をはじめ日本を代表する実業家の一人として知られます。第百国立銀行の頭取を務めるなど、日本経済黎明期の発展をけん引した人物を、朝来市は輩出しました」（安東さん）
朝来市佐嚢1283
問い合わせは、朝来市朝来支所☎079・677・1165

木村邸

（山東地域の古民家再生）

「木村邸は1883（明治16）年の建築で、142年の歴史があります。大屋根にあるキキョウの紋が示す通り、明智光秀の家来であったと、先祖代々言い継がれているそう。現在、大規模な改築中。地域活性化につながる計画が進められています」（藤井さん）

粟鹿神社

朝来市山東町粟鹿2152

當勝神社

朝来市山東町粟鹿2143

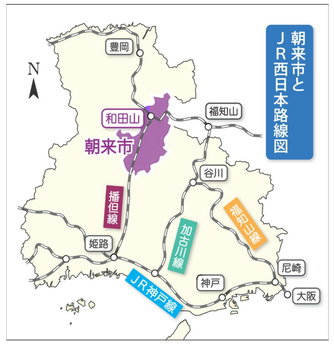
「粟鹿神社は古来より朝廷の尊崇があつく、約600年前には国家の大難に際して４度の勅使が派遣され、そのご加護として勅使門も建てられました。當勝神社の創建は奈良時代の730年と伝えられ、開運繁栄の神、万物造成の神、織物の神が祭られています」（藤井さん）

◇３月８日の朝刊では、写真家・藤原次郎さんが撮影した写真とともに「ふるさとの光」を紹介します。

感じに行こう　心にきらめき

ふるさとの光
発見プロジェクト　6紙連携企画
in 朝来市

神戸新聞社をはじめ西日本の６地方新聞社が連携し、地域資源や魅力を発掘し、発信する「ふるさとの光」発見プロジェクト。第１弾の岡山県新見市に続き、今回は兵庫県朝来市が舞台です。メインテーマは「豊かな自然のなか、時代の栄枯盛衰を見つめ、朝来の地を生きる人々。この地で輝き続ける『光』を探し、五つの扉を開けて、その魅力に思いをはせる」。特急「はまかぜ」「こうのとり」が停車するＪＲ和田山駅がある同市。ゆかりのある４人が選んだ「ふるさとの光」を紹介します。



特急はまかぜ

特急こうのとり

「ふるさとの光」発見プロジェクトの詳細はこちら

※選定された「ふるさとの光」のうち、銀の馬車道、鉱山町の寺、生野の町並み、竹田城下町、円明寺、刀我石部神社、ＪＲ播但線は掲載していません。

【主　催】「ふるさとの光」発見プロジェクト実行委員会
（構成＝北國新聞社、福井新聞社、京都新聞、神戸新聞社、山陽新聞社、中国新聞社）
【特別協賛】ＪＲ西日本
【協　力】朝来市

とよだのみたらしだんご

「山東町にある団子屋さんで、お店で焼いた団子を食べることができます。甘じょっぱいたれと香ばしい団子がベストマッチです。お土産として持ち帰っても楽しめます」（瀧口さん）
朝来市山東町矢名瀬町891の１、☎079・668・9180▷営業時間＝火・土・日10時～夕方（売り切れ次第終了）▷定休日＝第３日曜

きさらぎ　但馬うしステーキ丼卵かけ

「和田山町の割烹『きさらぎ』では、事前に予約をすれば、ランチの裏メニュー『但馬うしステーキ丼卵かけ』を提供してくれます。柔らかな但馬うしステーキの上に、ミスマッチとも感じられる溶き卵が乗っており、このふわとろ卵が絶品です」（藤井さん）
朝来市和田山町枚田78-1、☎079・672・2110▽定休日＝水曜　※来店は予約が必要となります。

しの屋

（和菓子職人・匠の技）

「ＪＲ和田山駅前の御菓子司『しの屋』は、『どらふす饅頭』や『ほほえみ饅頭』といった商品を販売。店主の信部共徳さんは、若い頃から得た和菓子職人の技術を生かし、製菓専門学校の講師も務め、後進に技を伝えています」（藤井さん）
朝来市和田山町寺谷682の4、☎079・672・5108▽営業時間＝9～17時半▽定休日＝日曜

上道製菓　シャリもっちアイス

「和菓子屋『上道製菓』が手がけるアイスで、もちもち感を楽しめる独特の食感が特徴。くず粉を使用しているため、溶けにくくなっています。味はラムネ、もも、ぶどう、マンゴー、あずきの５種類。さまざまなフレーバーが楽しめます」（瀧口さん）
朝来市山東町溝黒403の１、☎079・676・3125▷営業時間＝８～18時▷定休日＝火曜

岩津ねぎ

「地元の方に振る舞っていただいた『岩津ねぎ』のぬたのおいしさが忘れられません。甘さと柔らかさがそうさせるのだと思います」（安東さん）
朝来市農林振興課☎079・672・2774

天空のそば屋　右衛門五郎

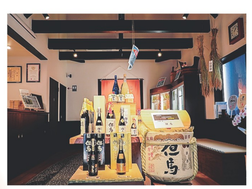
（撮影・藤原次郎）

「知る人ぞ知るそば屋『右衛門五郎』は、古民家風に建築して開店。竹田城跡を一望できる極めて珍しいロケーションにありながら、竹田城の石垣を障害物なく、肉眼で水平に確認できるのが売り。景色もこちそうにして、大変おいしくいただけます」（藤井さん）
朝来市山東町迫間825の１、☎079・670・7888▷営業時間＝ランチ11～15時（ラストオーダー14時半）、ディナー18～23時（ラストオーダー22時半、要予約）▷定休日＝毎週月曜、第１、３火曜（月曜が祝日の場合は営業、火曜休み）

此の友酒造

朝来市山東町矢名瀬町508
☎079・676・3035

「江戸時代に創業した二つの酒蔵が、わずか100メートルほどの近い距離にありながら、酒造りの源泉となる仕込み水は全く別という驚きがあり、味わいにも違いが感じられます」（藤井さん）



田治米

朝来市山東町矢名瀬町545
☎079・676・2033

生野銀山の坑道

「生野銀山にいる超スーパー地下アイドル『ＧＩＮＺＡＮ　ＢＯＹＺ（ぎんざんぼーいず）』。全員に細かい設定があり、本当に面白いです。くすっと笑えて銀山見学の楽しさが倍増します」（瀧口さん）
問い合わせは**シルバー生野**＝朝来市生野町小野33の５、☎079・679・2010▷営業時間＝12月～２月９時40分～16時20分（観光坑道受け付け終了時間15時40分）、期間ごとに営業時間の変更あり▷休館日＝12月～２月の３カ月間のみ毎週火曜（火曜が祝日の場合は翌日）、年末年始

ＧＩＮＺＡＮ　ＢＯＹＺ

神子畑選鉱場跡

「明延鉱山で採掘された鉱石を精錬するため作られた神子畑選鉱場。明治から昭和にかけて栄えた重要な産業遺産が、今もそのままの姿で残されています。夜は街灯が少ないため、空を見上げるとまるで星が降ってくるように感じられます」（瀧口さん）
問い合わせは、鉱石の道・神子畑交流館「神選」☎079・666・8002（朝来市佐嚢1842の１）▷休館日＝水曜（祝日のときはその翌日）、12月28日～１月３日

トロッコ軌道跡

問い合わせは、口銀谷銀山町ミュージアムセンター（旧浅田邸）＝朝来市生野町口銀谷、☎079・670・5006▷営業時間＝９～17時▷休館日＝月曜（祝日の場合は、その翌日）、年末年始

旧生野鉱山職員宿舎・志村喬記念館

「子供の頃に見て感動した黒沢明監督の映画『生きる』。素晴らしい演技をした志村喬氏が幼少期を生野で過ごしたと聞き、驚きました。現在も聖地として著名人や映画関係者も訪れています」（安東さん）
朝来市生野町口銀谷697の1、☎079・670・5005▽営業時間＝9～17時（入館は16時半まで）▽休館日＝月曜（祝日の場合は、その翌日）、年末年始

立雲峡テラス　光の道天望所

「竹田城跡の真向かいに位置する、桜の群生で有名な立雲峡の第１展望台に設置されたモニュメント。若者の交流サイト（ＳＮＳ）投稿も多く、写真映えする人気のスポットとなっています」（藤井さん）
朝来市和田山町竹田

竹田城跡登山道　落ちない岩

「竹田城跡の登山道沿いにあって、落ちそうで『落ちない岩』。残念ながら知名度が低く、もっと注目されてほしい。受験生の合格祈願としてお守りを作成するなど、もっと大々的に売り出してほしいかがでしょうか」（藤井さん）
朝来市和田山町竹田

選定委員のみなさん

公益社団法人ひょうご観光本部　事業推進部長　安東　明美さん

あんどう・あけみ　神河町出身。朝来市に祖父母宅があり、小さい頃からよく通っている。兵庫県入庁後、主に観光に携わり、特に2015年からの２年間は中播磨県民センター銀の馬車道担当班長を務める。現在、ひょうご観光本部でインバウンドと国内観光推進に取り組む。1969年生まれ。

映像作家、写真家　藤原　次郎さん

ふじわら・じろう　朝来市出身。生野高校、大阪芸術大学映像計画学科卒業。大阪のビデオ制作プロダクションなどを経て2011年、映像作家として独立。「陰影」を巧みに使った作品で、数多くの受賞歴がある。妻の故郷でもある大分県に移住し、創作活動を続ける。1955年生まれ。

芸術文化観光専門職大学３年　瀧口　凛々子さん

たきぐち・りりこ　福岡県宗像市出身。芸術文化観光専門職大学（豊岡市）進学を機に但馬に移住。大学の地域連携拠点「地域リサーチ＆イノベーションセンター」のスチューデント・アシスタント（ＳＡ）や実習活動を通し、朝来市観光コンテンツ開発事業に携わる。2003年生まれ。

富士発條　代表取締役社長　藤井　啓さん

ふじい・あきら　朝来市の隣、養父市の八鹿高校、同志社大学法学部を卒業。大手機械メーカーに６年間勤務した後、朝来市の富士発條に入社した。1995年に代表取締役社長に就任した。1958年生まれ。